

ひたちおおたてくでくウォーク 10

市内の自然・史跡や特産品なども交えて見所をお伝えしながら、地元の身近なウォーキングコースを紹介していきます。地元の意外と知られていない名所や素晴らしい自然、見所を巡りながら、皆さんもぜひ歩いてみませんか。

東染町ハイキングコース

距離：約9km 所要時間：3時間半

今回は、東染町を歩いてきました。

東日本大震災の際にも自主防災会が積極的に活動し、地域のつながりが強い東染町。エコミュージアム活動への取り組みも早く、看板などの整備も行われており見所が多い地区でもあります。歩く際には東染林業センターに車を停めて、南北に分けて歩くのがよいでしょう。どちらのコースも距離はなく、道路に沿って見所があるので、短時間で楽しんで歩けます。特に棚田の風景はとても美しく、時がたつのを忘れて見入ってしまいます。

「東染八景」の里山風景は、四季を通じておすすめです。

① 地蔵尊 (賽の河原の地蔵尊)



子育て地蔵尊・安産の地蔵尊であり、昭和6年県道改修時に移設したが、現在も子宝を願い安産祈願の参拝がされる。

④ 東染郷倉



文政九年(1826年)の建築で、水戸藩が農民救済のための策として、粟やひえを貯蔵し飢饉に備えるため設置された。集中曝涼時に一般公開される

② 十二所神社



日本各地に多くある十二所神社は、熊野三山の熊野十二所権現を祭ったものであり、ここもその一つと考えられる。拝殿は平成11年に改修されている。

⑤ 東金砂神社一の鳥居 (四足の鳥居)



かつては、参道入口のこの鳥居に寄り、ここから東金砂神社にお参りしたものとされている。鳥居の「東金砂山」の額文字は三猿を表す象形文字となっている。

③ 経屋



江戸時代の文久年間に尊師が住み、毎日お経を唱えていたそうです。昭和25年に建て替え、現在は集落の集会所として使用している。

東染八景

この東染八景、東染全地図に記載された年号は文政六年(1823年)とあり、水戸八景の設定より古い。八景の地の全てに看板があり、詠まれている唄が記載してあるので、悠久の里山の風景を想像してみるのも楽しい。



表紙によせて

2月19日、赤土町で開催された「常陸秋そばの郷まもりたい」主催の収穫祭で、子どもからお年寄りまで三代が、地域で活動している「表現座 SE ☆ COM (チンドンバンド)」の演奏を楽しんでいるひとコマです。(関連記事を10ページのエコミュージアム通信に掲載)

発行 常陸太田市 / 編集 情報政策課 〒313-8611 常陸太田市金井町3690 ☎72-3111 (内線303・304) Fax72-3002

*広報ひたちおおたは市のホームページでもご覧になれます
URL <http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/>

この広報紙は再生紙を使用しています